

一人でも多くの人の未来を豊かにしたい



JICA南スーダン事務所

大井綾子
Ooi Ayako

大学卒業後、民放の報道記者として働いた後にイギリスの大学院に留学。UNDP東ティモール事務所、在アフガニスタン日本国大使館を経てJICAへ。人間開発部で保健・栄養分野に関わり、2015年8月から現職。

さまざまな側面からの取り組みが必要な栄養改善。JICA人間開発部で栄養タスクチームの事務局を担当し、分野横断的なアプローチの実践に取り組んだ大井綾子さんは、現在、南スーダンの深刻な栄養不良問題に立ち向かっている。

授業で見た番組がきっかけ 開発途上国のために何かをしたい

私が国際協力に関心を持ったのは、高校の授業で見たブラジルのドキュメンタリー番組がきっかけでした。森林伐採やストリートチルドレンのことを知り、自分も途上国のために何かしたいと思うようになったのです。大学卒業後は途上国のことを伝えるドキュメンタリー制作を夢見てテレビ局に入りましたが、2002年に東京で行われたアフガニスタン復興支援国際会議で来日したアフガニスタン人女性を取材して、自分たちの国を作っていくというエネルギーに満ちあふれた姿に圧倒され、こんな人たちと働きたいと思ったのです。

そこでイギリスの大学院に留学してガバナンスと開発を学び、国連開発計画(UNDP)東ティモール事務所や国内避難民の帰還支援に携わりました。その後はアフガニスタンの日本国大使館でガバナンスや地方復興の支援に関わり、2013年にJICAに入りました。

JICAでは、人間開発部保健グループに配属され、カンボジアとフィリピンの保健分野のさまざまなプロジェクトに関わりました。初めて手掛ける分野で専門用語の多さに戸惑うこともありまし

が、多くのことを学びました。また、当初は保健グループだけが関わっていた栄養タスクチームの事務局を担当し、国際栄養ネットワーク「Scaling Up Nutrition (SUN)」との連携や、官民共同で取り組む「栄養改善事業推進プラットフォーム」の立ち上げに携わりました。世界では、栄養改善は保健のみならず農業や教育、水など、分野を超えた対策が進められています。JICAでも複数の部署が栄養タスクに参加して取り組みを始めることができました。

紛争で傷ついた南スーダン 農業を通じた栄養改善

2015年8月には、南スーダン事務所に配属されました。南スーダンは11年に独立した新しい国ですが、長年の紛争と開発の遅れから、数多くの課題を抱えています。栄養面では、食料不足と栄養不良が深刻です。特に、5歳未満の子どもの場合には、慢性的な栄養不良だけでなく急性の栄養失調も深刻で、世界で最も悪い状況にあります。ナイル川が流れ、国土の95%で農業ができるといわれるほど肥沃な土地にもかかわらず、国内の食料自給率が低くとどまっているため、JICAは農業開発マスタープランの策定を支援することで食料と栄養を安定的



広報アドバイザーを務める漫画家のアディジャンさんが描いてくれた、栄養不良対策としての農業の重要性を呼びかける漫画

に確保し、関連産業を育成することを目指しています。

南スーダン事務所では総務や広報などの仕事も担当していますが、事務所の広報アドバイザーには元ミス南スーダンや人気漫画家がいる、事務所を挙げて広報や啓発活動に力を入れています。2015年にはJICA内の広報グランプリを受賞したことは、事務所の励みになりました。

現在、治安の問題から、南スーダン事務所は隣国のウガンダを拠点に活動しており、もどかしさを感じています。それでも、これまでに築いてきた人間関係や協力の成果を維持し、少しでも多くの人々の生活を良くするために力を尽くしたいと思っています。



国の融和を目指し、昨年開催された南スーダンの全国スポーツ大会で、選手を取材